

平成26年度 順天堂学祖祭

帯 金 克 巳*

4月10日(木)18時から上野精養軒で、平成26年度の学祖祭が開催されました(出席者465名)。小川秀興理事長による式辞、酒井シヅ特任教授による特別講演の後、当日午前中に挙行された「日本医学教育歴史館開館披露及び順天堂創立175周年記念式典」等の模様がビデオ放映されました。

小川理事長式辞(要旨)

■日本医学教育歴史館開館披露及び順天堂創立175周年記念式典、記念講演会及び祝賀会

本日、有山登記念館講堂において、天皇皇后両陛下のご親臨を仰ぎ「日本医学教育歴史館開館披露及び順天堂創立175周年記念式典」が厳粛に執り行われました。本日4月10日は、両陛下におかれましてはご成婚55周年記念日にあたる重要な日であるにもかかわらず、本学の希望を受け入れて下さり、記念式典へのご臨席と歴史館のご視察を賜りましたことは誠に感慨深く、深く感謝申し上げます。また175年に亘る順天堂の軌跡についての式辞を両陛下にお聴き戴きましたことは大変光栄なことでございます。

順天堂創立175周年記念事業の一環としてオープンした日本医学教育歴史館は、平成23年2月~4月に国立科学博物館で開催された第28回日本医学会総会において、順天堂が主管幹事校となり企画・開催された特別企画展「医学教育史展~歴史でみる・日本の医師のつくり方~」の内容を保存・充実させたものであり、日本の医学教育の歴史を資料等により検証できる本邦初の常設展示施設であります。この歴史館には、戊辰戦争において第3代堂主佐藤進が奥羽追討陸軍病院の頭取に任命され戦傷者の治療にあたった際に、野戦病院に掲げられた菊の紋章入りの「病院旗」が展示されております。両陛下には

歴史館ご視察の最初にこの病院旗をご覧戴き、その後、酒井シヅ特任教授・小川理事長のご説明により、主要な展示品を時折質問を交えながらご覧戴きました。

式典の後、記念講演会及び祝賀会が催されました。記念講演会では、理化学研究所の野依良治理事長に「時代に生きる科学技術」をテーマにご講演戴きました。順天堂は、理化学研究所と共同研究、人材教育などの連携協定を締結していますが、記念講演を拝聴し、科学・医学・医療、医薬品・医療材料・医療機器の開発等の分野での協力が加速化され、国際的に評価される研究・開発が日本から発信されることが期待できるものと確信しました。

その後、センチュリータワー19階に場所を移し、祝賀会が開催されました。多数のご来賓にご出席戴いた祝賀会では、ご来賓を代表して早稲田大学前総長で現在放送大学学園理事長の白井克彦先生から、本学の存在意義について力強いお言葉を頂戴し、明石康国際連合元事務次長からは、今や日本を代表する3私学に数えられるに至った順天堂が今後ますます国際的リーダーシップを発揮することを期待する旨の祝辞を頂戴致しました。

また、本日の記念式典にご出席戴いた方々には、創立175周年の節目に編纂した「写真で見る順天堂史~175年の軌跡」などを記念品としてお渡し致しました。

その他のトピックスと今後の展望

小川理事長より、上述のとおり記念式典、特別記念講演及び祝賀会の模様についてスライドを用いて詳細に報告され、次いで恒例の如く順天堂の近況報告が以下の6項目に分けて報告されました。

* 総務部長事務取扱者
〔May 28, 2014 原稿受領〕

1) 世界アジア100大学ランキング入り

英教育専門誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション」によるアジアを代表する大学100校ランキングにおいて、日本の大学は22校が入っていますが、このうち私立大学は慶應（53位）、早稲田（57位）及び順天堂（60位）の3校のみであり、本学のランクインは大いに誇れることと自負しております。また、大学病院で診療に従事する大学院生の数は私立大学では順天堂大学がトップであり、臨床医学分野の論文の質についてみれば、トップ10%に入る論文数の割合は、私立では慶應に次ぐ2位、国公立を含めても10位の実績があります。乏しい予算のなか国立大学と肩を並べる成果を示していることはまさに順天堂の近年の躍進の証でありましょう。

2) キャンパス・ホスピタル再編事業

3月に新病棟（B棟I期）がオープンしました。新病棟は、東京大学・早稲田大学等との「医療と建築融合の共同研究」をベースとして建設され、そのコンセプトは、①100年建築、②次世代環境医療に対応したエコホスピタル、③最先端のICT技術の導入、④患者、スタッフに優しい癒しの空間作りであります。耐震・免震・制震、そして有事避難法などにおいて最新技術が導入され、安全面や環境への配慮にも行き届いた国内外、最新鋭の高層建築です。安全面では、東京消防庁が全国に先駆けて策定した「高層建築物における歩行困難者等にかかる避難安全対策」という指導基準に基づく本邦第1号の高層建築物で、火災時にエレベーターを使用して患者の安全かつ迅速な搬送が可能となりました。エレベーターの前のスペースには、有事の際に有毒ガスを屋外に出す画期的な排出機能を備えています。また、環境面でも、我国の建築環境総合性能評価システムで最高位のSランクを取得し、米国の建築環境性能評価システムにおいても病院では国内初のゴールド認証を取得します。

センチュリータワーについては、大学東校を辞した第2代堂主・佐藤尚中先生の支援により医術開業試験の受験を目指す学徒のために創られた済生学舎があった場所であり、再編事業の一環として百数十年の時空を経てこれを再び順天堂が買い戻し、最新の教育設備を整えたことを申し添えたいと思います。

3) 順天堂の格付

本学の財務状況をみれば、総資産、自己資金ともに順調に増加しており、大学運営は健全であると言えます。格付投資情報センターによる格付は、引き続き「AA（ダブルAフラット）」を維持しており、

再編事業については、「強いキャッシュフロー創出力を背景に手元資金で賄う方針を打ち出しており、財務構成が再び悪化する懸念は小さい」とし、高い信用力を保持しています。

4) 4学部の躍進

平成26年の国家試験合格率は、素晴らしい結果でした。

医師国家試験では、全国80の国公立大学の平均合格率が90%程度であるなか、本学は98.9%でした。特に今年卒業した人については100%合格の快挙を成し遂げました。看護師国家試験では、全国平均が89.8%であるのに対し、医療看護学部は98.5%、今年初めて卒業生を出した保健看護学部は100%合格を達成しました。国試対策委員の先生方及び学生諸君が本当によく頑張った結果であると思います。

次に、スポーツ健康科学部の企業への就職内定率ですが、全国的には厳しいとの報道があるなかで、本学は4月1日時点では98.6%と非常に高い内定率（現時点では昨年に続き100%）を示しており、しかも約3分の1が教員の道に進むという順調な状況であります。また、スポーツ健康科学部・昭和52年卒、長崎県立諫早高校出身の元甲子園球児、川島雄二氏が公益財団法人日本体育協会の事務局長に就任しました。スポーツ系大学出身者が極める最高位のポジションの一つであり、大変な快挙であると思います。

5) 5番目の学部「国際教養学部（仮称）」開設構想準備中

平成27年4月に、本学5番目の学部として定員120名の国際教養学部（仮称）の開設を構想しております。新学部のコンセプトは、英語を中心とした高いコミュニケーション能力とリベラルアーツを身につけ、国際機関、公務員、医薬品・医療機器メーカー、スポーツロジャー、パラリンピック（スポーツ医学など）、病院管理学、医学教育学、医療倫理学等々、国際的に活躍できる人材の養成を目指すことであります。

6) 順天堂人としての文化・風土

「他を慈しみ、慮る心、これ即ち“仁”」そして「今、ふたたび“仁”」を理念とする順天堂人としての高い品性と、国際的に通用する客観的な評価を得る高い研究力を養って戴きたいと思っております。国際化の前提となる英語力は、中国や韓国が著しい伸びを示していますが、開学以来国際化を目指してきた順天堂は、世界に通用するTOEFL、そしてIELTSを全学部において推進し英語力と教養力の強化を図っていきま

す。また、医学部では、国際的に通用するライセンスが取得できるよう ECFMG に挑戦して戴きたいと思いをします。

この創立175周年を節目に、全教職員が改めて“順

天堂の来し方”を想い、今後の順天堂の進むべき道に想いを馳せ、順天堂の建学の理念を確認することをお願い致します。